

# シラバス

令和5 年度

第 3 学年

昼間部(午後)

～ 柔整トレーナーコース(3年制) ～

学校法人 杏文学園

東京柔道整復専門学校

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 北村 一雄	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 外科学概論		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・外科学の基礎を理解し、代表的外科系疾患の知識を習得する。

## 【講義概要】

- ・外科学における麻酔・移植・出血と止血・心肺蘇生法について詳細に理解する。
- ・外科的疾患にどのようなものが把握し、各外科的疾患の原因、症状、治療、予後、合併症について理解する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・外科学概論 改訂第4版 南江堂
- ・標準外科学 医学書院

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	損傷	講義
2	創傷	講義
3	熱傷	講義
4	炎症	講義
5	外科感染症	講義
6	腫瘍	講義
7	腫瘍	講義
8	ショック	講義
9	輸血、輸液	講義
10	消毒と滅菌	講義
11	手術	講義
12	麻酔	講義
13	麻酔	講義
14	移植と免疫	講義
15	移植と免疫	講義
16	まとめ	講義
17	出血と止血	講義
18	出血と止血	講義
19	出血と止血	講義
20	心肺蘇生法	講義
21	心肺蘇生法	講義
22	脳神経外科疾患	講義
23	脳神経外科疾患	講義
24	脳神経外科疾患	講義
25	脳神経外科疾患	講義
26	腹部外科疾患	講義
27	腹部外科疾患	講義
28	胸部外科疾患	講義
29	胸部外科疾患	講義
30	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 小堀 孝浩	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 リハビリテーション医学		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・リハビリテーション医学に関する基礎医学を理解し、さらに広範囲にわたる対象者へのリハ医学の評価や診断および治療の専門的な知識を習得する。

## 【講義概要】

- ・リハビリテーションの概念と歴史・医学の概要を説明できる。
- ・リハビリテーション医学の基礎医学の概要を説明できる。
- ・リハビリテーション医学の評価と診断の概要を説明できる。
- ・リハビリテーションの治療・関連職種の概要を説明できる。
- ・脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、神経損傷、神経麻痺、リウマチ、整形疾患、循環疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションの概要を説明できる。
- ・リハビリテーションと福祉についての概要を説明できる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・リハビリテーション医学 南江堂
- ・現代リハビリテーション医学 金原出版

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	リハの概念、リハの歴史	講義
2	社会福祉六法と介護保険	講義
3	リハと医学的リハ、医学的リハとリハ医学、リハ医学の対象	講義
4	障害学	講義
5	治療学	講義
6	患者のとらえ方	講義
7	身体計測	講義
8	関節可動域測定法	講義
9	徒手筋力テスト	講義
10	中枢性運動障害・痙縮・小児運動発達の評価法、協調性テスト	講義
11	失認と失行・心理・日常生活動作の評価、電気生理的・画像診断	講義
12	運動療法	講義
13	運動療法	講義
14	物理療法	講義
15	物理療法	講義
16	まとめ	講義
17	作業療法	講義
18	言語療法	講義
19	補装具(上肢・下肢装具)	講義
20	補装具(体幹装具・義肢)	講義
21	補装具(移動補助具、自助具と介助機械)	講義
22	脳卒中のリハビリテーション	講義
23	脊髄損傷のリハビリテーション	講義
24	末梢神経損傷に対するリハビリテーション	講義
25	小児疾患のリハビリテーション	講義
26	関節リウマチのリハビリテーション	講義
27	整形外科疾患のリハビリテーション	講義
28	整形外科疾患のリハビリテーション	講義
29	切断に対するリハビリテーション	講義
30	心疾患、呼吸器疾患のリハビリテーション・老人のリハビリテーション	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 仲座 政宏	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 衛生学・公衆衛生学		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として、日常業務を衛生的に行う、また患者に対する指導をする上で必要な衛生学・公衆衛生学を理解する。

## 【講義概要】

・健康の概念、健康管理、健康教育、衛生統計、母子保健、食品衛生、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健、消毒、精神保健、感染症、環境衛生の概要を理解する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・衛生学・公衆衛生学 南江堂
- ・厚生指針 国民衛生の特集号 厚生統計協会

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	健康の概念・疾病	講義
2	健康管理・地域保健医療計画	講義
3	健康教育・疾病予防	講義
4	疫学	講義
5	統計と情報・衛生統計の種類	講義
6	主な衛生統計・健康指標	講義
7	母性保健・小児保健	講義
8	母子保健指標・母子保健法	講義
9	栄養・食品衛生の意義・食品管理・工食中毒	講義
10	学齢期の健康状況・学校保健対策・学校伝染病	講義
11	意義・主な生活習慣病とその対策	講義
12	職業病	講義
13	職業病	講義
14	労働災害・工産業保健対策	講義
15	高齢者医療確保法・介護保険法	講義
16	まとめ	講義
17	手指、皮膚、施術者、施術所の消毒	講義
18	感染症の予防	講義
19	行政組織・保健所・医療福祉制度・国際保健組織	講義
20	精神保健福祉法・精神障害者対策・精神的健康の保持	講義
21	空気の性状 他	講義
22	温熱因子、気候と健康 他	講義
23	水質基準、廃棄物処理	講義
24	公害、地球環境について	講義
25	微生物の分類・寄生虫	講義
26	微生物の分類・寄生虫	講義
27	感染症対策・感染源・経路・感染症法	講義
28	感染症対策・感染源・経路・感染症法	講義
29	抗原・抗体・予防接種	講義
30	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1期	担当教員 川上 智志	
講義区分 基礎分野	授業科目名 職業倫理		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として、必須となる倫理を理解する。

## 【講義概要】

・柔道整復師は開業することが可能である。一社会人・一医療人として必要な職業倫理を身に付け、社会に貢献できる柔道整復師を育成する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

・社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版株式会社

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	医療従事者の職業倫理	講義
2	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	講義
3	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	講義
4	柔道整復師の社会的責任と対応	講義
5	柔道整復師の社会的責任と対応	講義
6	グループディスカッション	講義
7	医療における情報と責任	講義
8	まとめ	講義



# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	3年生 第2期	川上 智志	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	関係法規	1 単位	30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復に関する法律を理解し、適切な柔道整復業務が行えるようにする。また、柔道整復との連携が必要な医療関係職種に関する法律も併せて理解し、業務分担・境界域を熟知し、業務の円滑な運営に資する人格の形成

## 【講義概要】

- ・法の概要を知り、憲法・法律・政令・省令・条例・規則などの関係を理解する。
- ・柔道整復師法の内容を理解し、他の医療関連法律との関係を理解する。
- ・医療法・医師法・歯科医師法などの概略を理解する。
- ・社会保険関連法規の概略を理解し、保険取扱の重要性を熟知する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・関係法規 医歯薬出版

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	序論	講義
2	柔道整復師法の総則・免許1	講義
3	免許2 柔道整復師国家試験	講義
4	業務1	講義
5	業務2	講義
6	施術所1	講義
7	施術所2	講義
8	雑則	講義
9	罰則・指定登録機関及び指定試験期間	講義
10	医療従事者の資格法	講義
11	医療法1	講義
12	医療法2	講義
13	社会福祉・社会保険関係法規	講義
14	社会福祉・社会保険関係法規	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	3年生 第1期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道③		1 単位 30 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投の形を用いて、柔道の理合いを追求する。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・礼法を正しく理解し、実践することができる。</li> <li>・受身を正しく理解し実践することができる。</li> <li>・投技を正しく理解し、実践することができる。</li> <li>・乱取りができる。</li> <li>・投の形を正しく理解し、実践することができる。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道の形(橋本親著)</li> <li>・投の形・柔の形 (講道館)ビデオ</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	礼法・受身・投技の確認	実技
2	礼法・受身・投技の確認	実技
3	礼法・受身・投技の確認	実技
4	礼法・受身・投技の確認	実技
5	投の形・乱取	実技
6	投の形・乱取	実技
7	投の形・乱取	実技
8	投の形・乱取	実技
9	投の形・乱取	実技
10	投の形・乱取	実技
11	投の形・乱取	実技
12	投の形・乱取	実技
13	投の形・乱取	実技
14	投の形・乱取	実技
15	まとめ	実技
16	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	3年生 第1期	川上 智志	
講義区分	授業科目名		
基礎分野	社会保障制度		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・医療費などの社会保障制度を理解し、柔道整復師として実社会で業務するに關与する事項を学習する。

## 【講義概要】

・医療費などの社会保障制度を理解し、健康や障害状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を身に付ける。また現在、問題となっている社会保障制度を悪用した事例なども紹介しながら、公正なる取扱いについても学習していく。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	社会保障とは	講義
2	社会保険制度とは	講義
3	医療保険制度とは	講義
4	医療保険の種類	講義
5	医療保険の種類	講義
6	療養費請求のケーススタディ	講義
7	療養費制度の概要	講義
8	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 大林 典弘	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床柔道整復学④		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる上肢の損傷(肩甲帯～上腕部)の発展学習を行い、知識の向上を図る。

## 【講義概要】

・3年生第1期までに学習した上肢の損傷(肩甲帯～上腕部)の総復習を行い、臨床上に必要な要綱を充実させる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	鎖骨骨折	講義
2	鎖骨骨折	講義
3	胸鎖関節脱臼	講義
4	胸鎖関節脱臼	講義
5	肩鎖関節脱臼	講義
6	肩鎖関節脱臼	講義
7	肩甲骨骨折	講義
8	肩甲骨骨折	講義
9	上腕骨近位端部骨折	講義
10	上腕骨近位端部骨折	講義
11	上腕骨近位端部骨折	講義
12	肩関節脱臼	講義
13	肩関節脱臼	講義
14	肩関節脱臼	講義
15	腱板損傷	講義
16	腱板損傷	講義
17	上腕二頭筋長頭腱損傷	講義
18	上腕二頭筋長頭腱損傷	講義
19	肩のスポーツ損傷	講義
20	肩のスポーツ損傷	講義
21	肩不安定症	講義
22	肩の末梢神経障害	講義
23	五十肩	講義
24	肩の鑑別診断	講義
25	肩の鑑別診断	講義
26	上腕骨骨幹部骨折	講義
27	上腕骨骨幹部骨折	講義
28	上腕部の神経損傷	講義
29	上腕部の神経損傷	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 村越 嵩紀	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床柔道整復学⑤		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師として必要となる上肢の損傷(肘部～手指)の発展学習を行い、知識の向上を図る。

## 【講義概要】

- ・3年生第1期までに学習した上肢の損傷(肘部～手指)の総復習を行い、臨床上に必要な要綱を充実させる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	上腕骨顆上骨折	講義
2	上腕骨顆上骨折	講義
3	上腕骨外顆骨折	講義
4	上腕骨内側上顆骨折	講義
5	橈骨近位端部骨折	講義
6	肘頭骨折	講義
7	肘関節脱臼	講義
8	肘関節脱臼	講義
9	肘部の軟部組織損傷	講義
10	肘部の軟部組織損傷	講義
11	橈骨骨幹部骨折	講義
12	ガレアジ骨折	講義
13	モンテギア骨折	講義
14	まとめ	講義
15	橈尺骨両骨骨幹部骨折	講義
16	前腕部の軟部組織損傷	講義
17	橈骨遠位端部骨折	講義
18	橈骨遠位端部骨折	講義
19	手根骨骨折	講義
20	手根骨骨折	講義
21	手関節部の脱臼	講義
22	手関節部の軟部組織損傷	講義
23	手関節部の軟部組織損傷	講義
24	中手骨骨折	講義
25	中手骨骨折	講義
26	手根中手関節の脱臼	講義
27	指骨の骨折	講義
28	中手指節関節脱臼	講義
29	指節間関節脱臼	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 菊地 正	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床柔道整復学⑥		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師として必要となる下肢の損傷の発展学習を行い、知識の向上を図る。

## 【講義概要】

- ・3年生第1期までに学習した下肢の損傷の総復習を行い、臨床上に必要な要綱を充実させる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂



【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	骨盤部の骨折	講義
2	大腿骨近位端部の骨折	講義
3	大腿骨近位端部の骨折	講義
4	股関節脱臼	講義
5	股関節の軟部組織損傷	講義
6	股関節の軟部組織損傷	講義
7	股関節の軟部組織損傷	講義
8	大腿骨骨幹部骨折	講義
9	大腿部の軟部組織損傷	講義
10	大腿骨遠位端部の骨折	講義
11	大腿骨遠位端部の骨折	講義
12	下腿骨近位端部の骨折	講義
13	下腿骨近位端部の骨折	講義
14	まとめ	講義
15	膝関節脱臼	講義
16	膝関節脱臼	講義
17	膝蓋骨の骨折	講義
18	膝蓋骨脱臼	講義
19	膝部の軟部組織損傷	講義
20	膝部の軟部組織損傷	講義
21	下腿骨幹部の骨折	講義
22	下腿の軟部組織損傷	講義
23	下腿骨遠位端部の骨折	講義
24	足根骨の骨折	講義
25	足部の軟部組織損傷	講義
26	中足骨の骨折	講義
27	足根部の脱臼・軟部組織損傷	講義
28	中足趾関節・趾間関節脱臼	講義
29	趾部の軟部組織損傷	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 川上 智志	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床柔道整復学⑦		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる頭部・体幹部の損傷の発展学習を行い、知識の向上を図る。

## 【講義概要】

・3年生第1期までに学習した頭部・体幹部の損傷の総復習を行い、臨床上に必要な要綱を充実させる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	頭蓋骨骨折	講義
2	頭蓋骨骨折	講義
3	頭蓋骨骨折	講義
4	顎関節脱臼	講義
5	顎関節脱臼	講義
6	顎関節脱臼	講義
7	頭部・顔面部の軟部組織損傷	講義
8	頸椎の骨折	講義
9	頸椎の骨折	講義
10	頸椎の脱臼	講義
11	頸部の軟部組織損傷	講義
12	頸部の軟部組織損傷	講義
13	頸部の軟部組織損傷	講義
14	頸部の軟部組織損傷	講義
15	肋骨骨折	講義
16	肋骨骨折	講義
17	肋骨骨折	講義
18	胸骨骨折	講義
19	胸椎の骨折	講義
20	胸椎の骨折	講義
21	胸椎の骨折	講義
22	胸椎の脱臼	講義
23	胸背部の軟部組織損傷	講義
24	腰椎の骨折	講義
25	腰椎の骨折	講義
26	腰椎の骨折	講義
27	腰部の軟部組織損傷	講義
28	腰部の軟部組織損傷	講義
29	腰部の軟部組織損傷	講義
30	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 荒井 一彦、吉田 晋、川上 智志、村越 嵩紀、井口 良平、大林 典男	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床柔道整復学特講		6 単位 180 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる総合・発展学習を行い、知識の向上を図り、3年間の総まとめを行う。

## 【講義概要】

・これまでに学習した柔道整復学の内容をより成熟させ、知識だけでなく総合的判断ができる思考ができるよに育成し、臨床上様々な場面で想定される事項に対応できるようにする。

## 【成績評価方法】

- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	骨折総論	講義
2	骨折総論	講義
3	骨折総論	講義
4	骨折総論	講義
5	骨折総論	講義
6	骨折総論	講義
7	脱臼総論	講義
8	脱臼総論	講義
9	脱臼総論	講義
10	脱臼総論	講義
11	脱臼総論	講義
12	まとめ	講義
13	軟部組織総論	講義
14	軟部組織総論	講義
15	軟部組織総論	講義
16	軟部組織総論	講義
17	倫理・社会保障	講義
18	倫理・社会保障	講義
19	倫理・社会保障	講義
20	倫理・社会保障	講義
21	固定法	講義
22	固定法	講義
23	固定法	講義
24	固定法	講義
25	固定法	講義
26	固定法	講義
27	診察と治療法	講義
28	診察と治療法	講義
29	診察と治療法	講義
30	診察と治療法	講義
31	診察と治療法	講義
32	診察と治療法	講義
33	まとめ	講義
34	関係法規	講義
35	関係法規	講義
36	関係法規	講義
37	関係法規	講義
38	関係法規	講義
39	高齢者の外傷予防	講義
40	高齢者の外傷予防	講義
41	競技者の外傷予防	講義
42	競技者の外傷予防	講義
43	外傷の保存療法	講義
44	外傷の保存療法	講義
45	外傷の保存療法	講義
46	外傷の保存療法	講義
47	外傷の保存療法	講義
48	まとめ	講義
49	頭部・体幹の損傷	講義
50	頭部・体幹の損傷	講義
51	頭部・体幹の損傷	講義
52	頭部・体幹の損傷	講義
53	頭部・体幹の損傷	講義
54	頭部・体幹の損傷	講義
55	頭部・体幹の損傷	講義
56	頭部・体幹の損傷	講義
57	頭部・体幹の損傷	講義

58	まとめ	講義
59	頭部・体幹の損傷	講義
60	頭部・体幹の損傷	講義
61	頭部・体幹の損傷	講義
62	頭部・体幹の損傷	講義
63	頭部・体幹の損傷	講義
64	頭部・体幹の損傷	講義
65	頭部・体幹の損傷	講義
66	頭部・体幹の損傷	講義
67	上肢の損傷	講義
68	上肢の損傷	講義
69	上肢の損傷	講義
70	上肢の損傷	講義
71	上肢の損傷	講義
72	上肢の損傷	講義
73	上肢の損傷	講義
74	上肢の損傷	講義
75	上肢の損傷	講義
76	上肢の損傷	講義
77	上肢の損傷	講義
78	上肢の損傷	講義
79	上肢の損傷	講義
80	上肢の損傷	講義
81	まとめ	講義
82	下肢の損傷	講義
83	下肢の損傷	講義
84	下肢の損傷	講義
85	下肢の損傷	講義
86	下肢の損傷	講義
87	下肢の損傷	講義
88	下肢の損傷	講義
89	下肢の損傷	講義
90	下肢の損傷	講義
91	下肢の損傷	講義
92	下肢の損傷	講義
93	下肢の損傷	講義
94	下肢の損傷	講義
95	下肢の損傷	講義
96	まと	講義
97	まとめ	講義
98	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 井口良平、荒井 一彦、菊地 正	
講義区分 基礎分野	授業科目名 柔道整復実技特講③		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

## 【講義概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できず技能・知識の習得も目的とする。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

## 【授業の特徴・形式】

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	鎖骨骨折の診断・整復	実技
2	鎖骨骨折の診断・整復	実技
3	鎖骨骨折の診断・整復	実技
4	鎖骨骨折の診断・整復	実技
5	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
6	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
7	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
8	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
9	コーレス骨折の診断・整復	実技
10	コーレス骨折の診断・整復	実技
11	コーレス骨折の診断・整復	実技
12	コーレス骨折の診断・整復	実技
13	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
14	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
15	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
16	まとめ	実技
17	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
18	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
19	肩関節脱臼の診断・整復	実技
20	肩関節脱臼の診断・整復	実技
21	肩関節脱臼の診断・整復	実技
22	肩関節脱臼の診断・整復	実技
23	肩関節脱臼の診断・整復	実技
24	肘関節脱臼の診断・整復	実技
25	肘関節脱臼の診断・整復	実技
26	肘関節脱臼の診断・整復	実技
27	肘関節脱臼の診断・整復	実技
28	肘内障の診断・整復	実技
29	肘内障の診断・整復	実技
30	まとめ	実技
31	まとめ	実技



# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 井口良平、荒井 一彦、菊地 正	
講義区分 基礎分野	授業科目名 柔道整復実技特講④		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復術の施術のうち固定術を中心に実践的施術実技を習得する。

## 【講義概要】

- ・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に固定術を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できず技能・知識の習得も目的とする。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

## 【授業の特徴・形式】

- ・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	上腕骨骨幹部骨折	実技
2	上腕骨骨幹部骨折	実技
3	上腕骨骨幹部骨折	実技
4	コーレス骨折	実技
5	コーレス骨折	実技
6	コーレス骨折	実技
7	第5中手骨頸部骨折	実技
8	第5中手骨頸部骨折	実技
9	第5中手骨頸部骨折	実技
10	下腿両骨骨幹部骨折	実技
11	下腿両骨骨幹部骨折	実技
12	下腿両骨骨幹部骨折	実技
13	肋骨骨折	実技
14	肋骨骨折	実技
15	肋骨骨折	実技
16	まとめ	実技
17	第2指PIP関節背側脱臼	実技
18	第2指PIP関節背側脱臼	実技
19	第2指PIP関節背側脱臼	実技
20	アキレス腱断裂	実技
21	アキレス腱断裂	実技
22	アキレス腱断裂	実技
23	足関節外側靭帯損傷	実技
24	足関節外側靭帯損傷	実技
25	足関節外側靭帯損傷	実技
26	膝関節のテープ固定	実技
27	膝関節のテープ固定	実技
28	足関節のテープ固定	実技
29	足関節のテープ固定	実技
30	まとめ	実技
31	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2期	担当教員 荒井 一彦、井口 良平、村越 嵩紀	
講義区分 基礎分野	授業科目名 柔道整復実技特講⑤		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復術の施術のうち軟部組織損傷を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

## 【講義概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に軟部組織損傷を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できず技能・知識の習得も目的とする。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

## 【授業の特徴・形式】

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩腱板損傷の診察	実技
2	肩腱板損傷の診察	実技
3	肩腱板損傷の診察	実技
4	肩腱板損傷の診察	実技
5	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
6	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
7	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
8	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
9	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
10	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
11	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
12	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
13	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
14	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
15	まとめ	実技
16	膝十字靭帯損傷の診察	実技
17	膝十字靭帯損傷の診察	実技
18	膝十字靭帯損傷の診察	実技
19	膝十字靭帯損傷の診察	実技
20	膝側副靭帯損傷の診察	実技
21	膝側副靭帯損傷の診察	実技
22	膝側副靭帯損傷の診察	実技
23	膝側副靭帯損傷の診察	実技
24	膝半月損傷の診察	実技
25	膝半月損傷の診察	実技
26	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
27	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
28	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
29	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
30	まとめ	実技
31	まとめ	実技
32	まとめ	実技
33	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1期	担当教員 初森 裕隆	
講義区分 基礎分野	授業科目名 高齢者の外傷予防		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・社会に求められている機能訓練指導員について柔道整復師として何が出来るかどのように貢献できるか理解を深める。

## 【講義概要】

・柔道整復師への社会的要請の一つである高齢者の外傷予防に対し、高齢者の生理的特徴・変化で得た知識を活用し、高齢者に対する具体的な外傷予防手法を身に付ける。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復師と機能訓練指導 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	発達と老化の理解	実技
2	認知症の理解	実技
3	介護保険制度	実技
4	介護過程とICF	実技
5	介護予防とロコモティブシンドローム	実技
6	高齢者自立支援の理解	実技
7	機能訓練指導員と機能訓練	実技
8	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1期	担当教員 初森 裕隆	
講義区分 基礎分野	授業科目名 競技者の外傷予防		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・多様化かつ高度専門化する競技者の外傷予防への専門的知識を習得し、競技者特有の外傷予防法を習得する。

## 【講義概要】

・柔道整復師への社会的要請の一つである競技者の外傷予防に対し、競技者の生理的特徴・変化で得た知識を活用し、競技者に対する具体的な外傷予防手法を身に付ける。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

・競技者の外傷予防 医歯薬出版

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	運動生理学の概要	実技
2	運動生理学の概要	実技
3	競技者の外傷予防	実技
4	競技者の外傷予防	実技
5	競技者の外傷予防のための実技	実技
6	競技者の外傷予防のための実技	実技
7	競技者の外傷予防のための実技	実技
8	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 3年生 第1・2・3期	担当教員 紺野 直能、井口 良平、村越 嵩紀	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床実習(3年生)		1 単位 45 時間

当該教員の実務経験: 柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校附属臨床実習施設での最終臨床実習とし、将来につながる技術の研鑽に努める。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と出席状況によりまとめる。</li> <li>実習後のレポートで評価する。</li> <li>出席率、実習態度、レポートで総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包帯固定学 南江堂</li> <li>柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日 目	指導教員に随行し下記の項目を補助し実践的に学習する。	実技
2		・受付業務	実技
3		・初診	実技
4		・再診	実技
5		・整復、手技	実技
6		・患部固定	実技
7		・運動療法	実技
8		・指導管理	実技
9		・開始時・終了時の業務	実技
10		ロールプレイ	実技
11	第5日目	総まとめ	実技